

出張まちづくり懇談会

町商工会理事との懇談会を開催



各種団体に町長が出向き、町民の皆さんと直接語り合う『出張まちづくり懇談会』。10月28日、多古町商工会理事の皆さん12人との懇談会が、町商工会会議室を会場に開催されました。
提案されたテーマなどに基づき、活発な質疑応答や意見交換が行われました。主な内容をお知らせします。

大型店の出店による町商業への影響について

質問◆昨年12月に開店した「セイミヤ多古店」がもたらす町商業への影響について、町としてはどのように考えているか？

回答●このたびの大型店の出店が、町商業にどのような影響を与えているかについては、これまで町として特別な調査等は行っておりません。影響を受けている業種も少なからずあるかとは思いますが、出店からまだ1年ということもあり、影響が表面化してきていないのではないのでしょうか。

このような大型店や道の駅の利用客を町内の商店街に引き込み、共存・共栄できるようにすることが、商店



街の活性化に向けた好ましい姿勢と考えますが、今後、商工会や町民の皆さんからの意見を伺いながら、適切な対応策を講じていきたいと思えます。

道の駅を中心とした町商工業の活性化について

質問◆「道の駅多古あじさい館」は、関係者の努力もあって大きな成果を上げています。この道の駅を中心に、町の商工業全体の活性化を図るためにも「道の駅多古第二駐車場活用検討委員会」のメンバーに、商工会理事



を加えてもらうことはできないか？

回答●現在、道の駅には町内外から合計312人が出店しており、年間の来館者数は約45万人、売り上げも県内トップクラスの実績を誇っています。

今年8月、道の駅第二駐車場の活用方法や今後の道の駅のあり方などを検討する場として、11人の委員による「道の駅多古第二駐車場活用検討委員会」を立ち上げ、これまで2回ほど協議を行いました。

このメンバーに商工会理事の方を加えることについては、特に問題はないかと考えますが、今後、役員会などで検討したいと思います。



地域通貨券(プレミアム商品券)について

質問◆商工会において今年発行した「地域通貨券(プレミアム商品券)」については、事前の準備不足などから改善すべき点多かったと考えていますが、来年も同様の通貨券を発行しようとした場合、今年同様に町からの補助金は期待できるか？

回答●近年、町の財政は大変厳しい状況が続いており、現時点で来年の補助金交付をお約束することはできません。

最終的には、商工会の皆さんの熱意や努力による部分が大きいかと思えますが、今回の通貨券(商品券)がもたらした経済効果や、改善すべき点などを十分分析していただいた上で、町商工業の活性化に向けて、より高い効果が期待できるような提案が示されれば、補助金交付の可能性も高まると思います。

多古台開発について

質問◆多古台開発の今後の計画はどうなっているか？

回答●多古台開発は、全体で約29ヘク

町内商店会の有志らが『鯨ヶ丘商店街』を視察

多古町商店街の再興に向けて10月7日、町内商店会の有志と町長をはじめとする町関係者ら総勢17人が、茨城県常陸太田市の『鯨ヶ丘商店街』を視察しました。

この『鯨ヶ丘商店街』は、衰退を余儀なくされた地元商店街の活性化を図ろうと、地域を愛する皆さんにより設立された「鯨ヶ丘倶楽部」が中心となって、見事復活を成し遂げた「商店街再興の先進地」です。

参加者たちは、商店街再興までのエピソードや「鯨ヶ丘倶楽部」の活動内容に関する説明に耳を傾けながら、積極的に質問を投げ掛けるなど、多古町の商店街再興への強い思いが感じ取れる充実した視察となりました。



タールの計画となっていますが、そのうち1ヘクタール分は、現在整備を進めている都市計画道路の用地であり、4ヘクタール分は、幼保一元化施設やバスターミナルなど、町の公共用地に充てる予定です。そして残りの24ヘクタール分は、民間が開発する住宅団地の用地として、開発業者へ売り渡すことになっていますが、現在、開発業者から戸建住宅や共同住宅のほか、大きな公園

の整備などが提案されています。景観の良さや広い土地などを売りに、近隣の住宅団地との違いを前面に打ち出していきたいと考えていますが、今後、開発業者から提出される具体的な計画について、こういった町の意向が十分反映されているかどうかを慎重に見極めながら、より魅力のある多古町にふさわしい住宅団地となるよう協議を重ねていきたいと思えます。